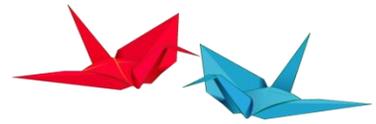


としょかんだより6月号

平成30年6月 神原小図書館



神原小学校では、6月は平和月間です。平和月間では、6月23日の「慰霊の日」にむけて戦争についての本を読み、戦争の悲惨さや平和の大切さを学び、考えてみましょう。



1階の多目的教室では、沖縄戦の写真パネルや、戦争と平和にかんする資料を展示しています。

いれいひ 慰霊の日とは・・・

今から73年前の6月23日に、沖縄戦が事実上終わったとされています。沖縄戦で亡くなった、たくさんの人びとの魂をなぐさめ、世界の平和を願う日として沖縄県ではこの日を「慰霊の日」と決めました。

戦争と平和をかんがえる本

●沖縄戦についてかんがえる

「つるちゃん」

太平洋戦争がはじまり、アメリカ軍が沖縄に上陸。つるちゃんの家は戦火を避け、沖縄本島を南へと逃げていきますが、つるちゃんはひとりぼっちになってしまいました。8歳のつるちゃんが体験したおはなしです。

●戦争についてかんがえる

「ぼくのこえがきこえますか」

せんそうでぼくのからだはとびちった。でもぼくのころがおとうとのいかりをみて、かあさんのかなしみをみる。戦争による憎悪と復讐の連鎖のむなしさがかかれています。

●平和についてかんがえる

「へいわってすてきだね」

久部良小学校の当時1年生の安里有生くんが平和への思いを書いた詩です。「このへいわがずっとつづいてほしい」という願いがこめられています。

おしらせ1



このマークがはられている本は、戦争と平和を考える本です。6月中、このマークの本をかりる人は、1冊多くかりられます。

おしらせ2

平和月間の読書リレーをしています。戦争と平和に関する本を読んで感想をようしに書いて提出するとプレゼントをさしあげます。